



八千代市郷土歴史研究会
 会長 村田一男
 事務局 八千代市勝田台 3-24-10 牧野方

八千代市民文化祭 郷土史展

とき：10月27日(土)午後1時～5時
 28日(日)午前9時～午後4時

テーマ「八千代市内旧村の今・上高野」
 ところ：勝田台文化プラザ 2階展示室

ようこそ郷土史展へ 旧村紹介・・・上高野

今年は郷土史研究の新しいところみをしてみました。

勝田台駅から北方へ広がる大地に古くから開けたムラ。

このムラの北半分は古いムラのたたずまいがひっそりと残り、南半分の台地は、幕末から明治へと近代の曙のときに開かれ、戦後は工業団地が造成され近代化の波が押し寄せたという新旧並立の特色ある上高野を取り上げてみました。

ムラのひとつひとつが営々と築いてこられた歴史・民俗・文化をあらゆる角度から総合的に迫って、旧村・上高野のもつ魅力をご紹介したいと思います。

会長 村田 一男

プログラム

プロローグ

第一部

- ? 上高野の概観マップ
- ? ムラのたたずまい
- ? 春を迎えるムラの民俗行事
- ? ほとけにいのる
- ? 神々とやしる
- ? 路傍の石造物
- ? 上高野原の今昔
- ? 三省翁の碑
- ? 駒形神社の句額
- ? 上高野の板碑

第二部

- ? 「八千代の歴史散歩道」 島田台から桑橋へ
- ? 旧成田街道の岩田長兵衛銘道標
- ? 郷土史研 一年間の活動日誌とアルバム

お知らせ

11月11日(日)

バス見学会「金山城址・大光院」(群馬県太田市)

戦国時代の名城金山城は新田山と万葉集に歌われた山、ふもとには「子育て吞龍さま」の大光院やさざえ堂などがあります

- ・集合：勝田台北口 午前6時45分
- ・会費：約12,000円を予定(昼食込み)
- ・申込：電話番号を記入し、はがきで事務局まで。
- ・〆切りは10月末日まで、なお先着20名です。
- ・会員以外の方も歓迎します。

12月23日(休)

横戸・勝田見学会と忘年会

- ・集合：勝田台南口 リブレ京成前バス停より
午前9時3分発こてはし行きバスに乗車のこと
- ・忘年会：12時半より 南苑(中華料理)にて
(勝田台北口より296号線沿い西100m ホテルドエル1F)
- ・会費は4000円女性3500円・申込は関和まで。

新春2002年1月6日(日)

日本橋七福神巡りと史跡探訪

- ・集合：東西線日本橋駅中央改札口10番出口方面
9時30分 (東葉高速線勝田台駅8時32分発)
- ・申込：電話番号を記入し、はがきで事務局まで。
- ・会員以外の方も歓迎します。(資料代500円)

日本橋七福神巡りはすべて神社で、日本一楽な七福神巡りです。家康が江戸開府以来、現在にいたるまで金融・商業の中心地として発展してきた日本橋の史跡を訪ねて、初春の一日を歩いてみませんか。ゴールはタイムスリップして、江戸時代の日本橋の上で解散。

- ・コース：日本橋＝道路元標＝一石橋＝常磐橋御門＝三越＝宝田恵比寿神社＝相森神社＝小網神社＝茶ノ木神社＝水天宮＝松島神社＝甘酒横丁～昼食・休憩～末広神社＝笠間稲荷神社＝江戸東京博物館・解散

7月8日(日)

金乗院での例会について

園田充一

猛暑が続くツユの晴れ間、上高野の金乗院の本堂に続く広間(コミュニティセンター)に会員23名が参加。今年の研究テーマである上高野の今昔についての勉強会で、講師に上高野在住の藤代巖氏(大正9年生)をお招きした。

金乗院や駒形神社・白幡神社の上高野における宗教施設と、ムラ人とかかわりを皮切りに、熱心な質疑応答の形で進められた。

第二次大戦後の急激な社会変化により、昭和30年代以降それまであった祭りや集まりが廃れ、現在ではほとんど残っていない状態で、時代の流れとはいえ残念である。

特に印象に残ったのは、藤代氏が委員長をした高野川周辺の、土地改良の苦労話で、そのいきさつについて多くの時間が取られた。金乗院にはその業績を残すため、上高野土地改良記念碑が建られている。

また、先の道標調査で上高野の林の中の路傍にあった、上半分が欠けている「停留場道・小学校道」の道標(E03)について意見を求めたところ、即座に京成線の志津駅と阿蘇小学校を挙げられ、さすがに地元の人だと感心した。

話は弾み、終わったのは13時を回っていた。いろいろな質問にいていかに答えてくれた藤代氏に厚くお礼を申し上げる。

遅い昼食をすませ、後半は新入会員の紹介や、今年の調査分担の現在までの進み具合など今後の打ち合わせを行った。

その後、最近発見された道標が近くにあるので、全員徒歩で現地に向かう。道が交差する所から30m程離れた路傍に、正面に「秩父三拾四番」右面に「右八村上かやだみち」左面に「左八いの新田ちばみち」と彫られたもの。今は畑となっている所に埋められていたものを掘り出して、現在の道

路端に安置したという。道標の悉皆調査で見落とし「八千代の道しるべ」に登載できなかったこと、地区担当者として恐縮しています。

ついでに、近くの庚申塚と毘沙門堂を見学して17時頃解散した。



8月12日(日)

上高野原フィールドワーク

佐久間弘文

7月の猛暑から一転して爽やかになった8月、今月の例会は地元の温厚沈着な福田さんの案内で上高野歴史調査シリーズの第3弾「上高野原フィールドワーク」が行われました。

勝田台北口に集まった会員は18名、配られた迅速図をもとに牧野副会長から現在地を当てるクイズが出題され、全員正解で気分良く成田街道を東へ出発しました。

旧米本道入り口の庚申塔(サ01)米本に至る古道の道しるべがアカシヤの木の下に雑草に埋もれてひっそりと立っています。明治42年、米本木下道と読めますが次第に風化が進む道標です。

井野町会館前大師堂ほか
会館前に赤い布にくるまれた小さなお大師さんが祀られる千葉十善講の番外札所、そのすぐ近くに新設の鳥居と馬頭観音堂、また京成踏み切り近くの小さな広場にある地面を小高く盛り上げた上にブロック造りの小屋に入った庚申塔などをみて廻りました。

ローソン佐倉井野店前道標群
おなじみの七代目団十郎の建てた道標や常夜灯などがここに集められています。江戸時代「林屋」という茶屋がここにあり、すぐ近くに「加賀清水」の湧き水があつて旅人が一息ついたところという。大和田宿からここまで休むところがなかったのでしょうか。

七代目の建てた道標の右側面には「天はちち 地はかかさまの清水かな」とあり、またその手前に建つ句碑を会員の畠山さんの指導で読むと次のようでした。

「春駒や ここも小金の原つづき 古帳女」

「立ち止まり 立ち止まる野や 舞いひばり 古帳庵」

参考までに古帳庵は「ほととぎす 銚子は国のとっぱずれ」を詠んだ句で知られているとのことでした。

加賀清水・稲荷神社
住宅街の中の木立に囲まれ小さな池ですが、何となく落ち着いた雰囲気を感じる場所のように思います。第8代の佐倉藩主大久保加賀守忠朝が江戸との往来のとき立ち寄って愛飲した清水のようですが、いまその湧き出る面影はありません。

今村稲荷神社
井野と上高野原の境界を越えた、との福田さんの解説があり八千代の上高野に入ってきました。ほどなく「今村稲荷神社」です。会員の上山さんがその設置に大きな役割を果たした「稲荷神社縁起碑」には、代官今村省吾義則が一身をなげうって農民の生活を助けたと記されています。すぐ横の社務所を兼ねた上高野公会堂では、囲碁を囲むグループが私たちには目もくれず熱戦を展開中でした。

上高野大師堂
千葉寺の番外札所であり「虫除け大師」として親しまれた大師堂は「唐破風」造りの屋根が特徴で、会員の小菅さんが詳しい解説を加えてくれました。

新発見の道標

7月の酷暑のなか、会員の園田さんが大師堂からほど近くの辻、上高野 1232-4 の民家の堀に埋め込まれた道標を発見しました。上高野原大師を指さす巡拝塔のようです。

このように、道標を堀の中に埋め込んでまで残してくれた住人と発見した園田さん、また今日の案内者福田さんに感謝してフィールドワークを終了し、昼食場となる「市民ふれあいプラザ」まで「上高野原」を実感できそうな細い道をたどりました。



10月13日 文化財保護の会主催行事 常陸の福泉寺と大杉神社を訪ねて わらび ゆみ

今年も文化財保護の会よりバス見学会のお誘いをいただき、本会から7名が参加、八千代市の誇る正覚院釈迦像と飯綱神社社殿、民俗行事「大杉ばやし」のルーツと関わりを探して、秋晴れの南常陸路の旅を満喫してきた。

朝8時、勝田台を出発し、まずは鹿島神宮へ。清々しい社叢林の参道を抜け、御手洗池に行く。かたわらに神仏習合だった名残のお地藏様を見つける。涼泉寺跡で、一説にはこれから行く福泉寺の釈迦像はここにあったともいう。

鹿島灘沿いにバスを進め、大洋村の福泉寺へ。建替えられたばかりの本堂横の収蔵庫で釈迦像と念願の対面。村上の正覚院、茂原の永興寺と同系のすばらしい清涼寺式釈迦如来像だ。



桜川村阿波に向かう。ここに房総から北関東にかけての信仰圏をもつ「あんばさま」=大杉神社がある。吉橋寺台など八千代市でもあんば信仰の民俗行事が続いてきた。

文化財に詳しい宮司さんに案内いただく。

現在社殿は平成20年を目途に本格的な復元修理中。その調査で明かになったことは、萱田の飯綱神社が、二百年前火災で建替える前の大杉神社社殿を縮小複製して作られ、玉垣の二十四孝の彫刻も同一の彫り師島村円徹により、大杉神社を手本としていたことである。



常陸風土記に「安婆島」と記されたこの地は、銚子から内海を行く船にとって、左へは下総国府、右へは常陸国府へ分岐する地点であり、ここにランドマークのごとくそびえる杉の巨木は、海人（あま=あんば）の守護神であった。

近世は、病魔退散の神としても里人に広く信仰され、その社殿は最新の華麗な意匠に飾られていたという。

鹿島から阿波へ。「香取の海」の文化交通圏の中で、八千代の位置を再認識できた今回の旅だった。

緑の現状調査員委嘱について

八千代市より本会を通じ、「緑の基本計画策定」に係る「八千代市緑の現状調査員」委嘱の依頼があり、牧野さん・中島さん・福田さんにお引受けいただきました。

委嘱期間は9月16日から3月末日までです。ご多忙のところ、よろしくお願ひします。

(事務局)

その他の活動報告

9月9日(日)

午後1時半~4時 拡大役員会
市郷土博物館にて 10名参加
・「史談八千代」26号内容の検討
・道標再調査作業のプランなど

9月23日(日)

午前10時~午後4時 例会
市郷土博物館にて 18名参加
・文化祭展示内容の検討
・「史談八千代」校正作業
・文化祭はがきポスター製作
・市緑の現状調査員委嘱の報告

10月7日(日)

午前10時~午後4時 作業
市郷土博物館にて 17名参加
・文化祭の展示製作と準備
・「史談八千代」最終校正

福泉寺は、常陸大掾平忠幹の建立で1325年北条高時が中興。西側を北浦に、三方を台地に囲まれたたたずまいも正覚院に似ている。

中世、「香取の海」といわれた霞ヶ浦・北浦・常陸川(現利根川)の内海は手賀沼・印旛沼にも広がっていた。

鎌倉から金沢六浦を経て江戸湾を渡り、千葉寺そして村上へ。ここからはこの福泉寺へも、鹿島へも石岡の常陸国府へも水路でつながる。

南都西大寺の忍性らの真言律宗の教線も、その足跡に清涼寺式の仏像を残しつつ、香取の海を舞台に広がっていたに違いない。

天王崎で昼食後、麻生氏の古城址に登る。のどかな内海を望んで戦国の覇者に思いを寄せ、午後は

【月刊「歴史研究」484号に会員の投稿が掲載されましたのでご紹介いたします。】

「ふるさと再発見八千代の道しるべ」発刊を記念して

村上昭彦

歴史研究第 473 号「パソコンと歴史研究」に掲載の拙稿「郷土史研究におけるパソコン活用法」でもご紹介させていただいたが、八千代市郷土歴史研究会の道標悉皆調査はたいへんな方向に進んで行ってしまった。

なんと市の刊行物として「ふるさと再発見八千代の道しるべ」を刊行することになったのである。

昨年の春、ちょうど市内の道標悉皆調査を終えた頃、「ふるさと八千代市民企画提案事業」に会で応募して採用されたのである。事業内容は一言でいうと、市内の道標資料集の刊行である。八千代市ではまだ石造物の資料編のようなものは刊行されていなかった。会員のだれもがそれに匹敵するものを作りたいと考えたので、会員の気持ちのひとつになるのは訳のないことであった。

ではここに「ふるさと再発見八千代の道しるべ」について、簡単に紹介しておこう。

道標 1 基につき、見開き 2 ページ使い、道標調査票に所在地図、道標写真 3 ~ 4 枚つけて紹介する。(掲載道標計 143 基)

道標データを簡単にまとめ、統計資料と解説をつける。

市内の道標分布図(現位置と元位置を示したものを)を添付する。

ここまでならば、市町村が刊行する単なる資料集である。しかしわれわれはアマチュアの歴史研究会である。やはりアマチュアとしての特色を出したい。そこで今回の目玉、市内の「道の案内記」を掲載する。

「道の案内記」とは道標をたどることによって明らかにされた市内の古道にスポットを当て、八千代歴研執筆陣が歴史散歩として紹介するものである。

「道の案内記」で紹介されている古道は全部で 16 本。近世の八千代には信心深い人々が多かったのだろうか。なぜか市内の神社やお

寺への参詣の道が多い。飯綱権現への道、米本稻荷への道、そして血流地蔵尊をまつる貞福寺への道などなど。変わり種としては、明治 43 年のお遍路さんの道がある。江戸時代後期、市内北部に開設された四国霊場八十八ヶ所のミニチュア版・吉橋霊場札所。明治 43 年は吉橋霊場札所の開設者・存秀法印師の百回忌の法要の年にあたり、その年のお遍路を盛大にとりおこなうため、道々に道標が設置された。これをたどることにより、明治 43 年の遍路道を推定することができる。他の市町村では見られない八千代市だけの特色である。

さて版下作成作業は、道標調査票の見直しから始まった。グループを再編成し、この 2 年間、会員みんなで手分けして作成した道標調査票をひとつひとつ、再確認して歩いた。グループを再編成したのは、最初の調査とは、また違う目で確認する必要があると考えたからだ。思ったとおり、銘文の読み違い等、問題点があまた噴出したが、新しい道標の発見といううれしい悲鳴もあった。

そのあとの作業は、調査票の清書には古文書のエキスパートを、統計資料作成にはパソコンのエキスパートを、地図作成にはイラスト、アタッチワークのエキスパートを、写真撮影には若き機動力を、原稿校正には豪華執筆陣? という具合に分担作業となった。いささか各パートの少数精鋭だけでまとめたしまった感もあるが、その土台に会員全員で歩き回って作成した道標調査票があることを忘れてはならない。

そして、晴れて 4 月 24 日(火)、八千代市郷土博物館に 1600 部が納品された。

刊行本は 4 回に分けて市民に配本されるのだが、これが掲載されるころにはすでに 3 回目の配本を終え、残すところ、10 月 27.28 日の市民文化祭だけとなってしまっているであろう。

われわれは幸運にも恵まれ、道標悉皆調査の成果をひとつの資料集という形にまとめることが出来た。

しかし忘れてはならないのが、これは単なる資料集であり、在野

の歴史愛好家に有効活用されてはじめてこの本の価値が出てくるのである。

できれば、それが八千代市郷土歴史研究会の手でなされんことを期待する。

会員消息

- ・牧野事務局長の電話番号が変更されました。
- ・大西茂子さんが船橋市八木ヶ谷に転居されました。

個人情報保護の観点から、「史談八千代」「郷土史研通信」の紙面より、会員の住所・電話番号の欄を廃止します。

なお会員には、本通信の別刷りとして「会員名簿」を添付いたしますので、上記変更点をご確認の上、ご利用ください。

会員個人のホームページ

会員の個性豊かなHPを紹介します

現地が一番

<http://homepage1.nifty.com/tm/page/>

歴史に好奇心! さわらび通信

<http://homepage1.nifty.com/sawarabi/>

中山道徒歩の旅

<http://members.aol.com/narumanaru/nakasendonotabi/>

旧成田街道を歩く

<http://homepage2.nifty.com/kagokaki/index.html>

編集後記

「やっとWordでの編集になれた」と書いた34号、印刷担当のM氏にファイルで送ったら、ソフトのバージョン違いで、罫線が黒太線になるミス。(あらら!)

今度こそは大丈夫! ?
校正など皆さんの応援に感謝。
なお34号はS編集長のお力添えで刷り直しました。

(ゆみ)